



「10年後の木材自給率50%」をキャッチフレーズのひとつとして登場した森林・林業再生プランは、論者だけでなく生産現場、行政や一般大衆をも巻き込み、これまでにない多くの議論を喚起しました。一連の対策で、価値実現を待つ国産材の供給量を確保する体制についてはある程度の布石が打たれてきたといえそうです。

一方で、量的な供給体制が整うなかで、2012年上半期には想定以上の木材が市場に溢れたことによると思われる価格暴落が業界を襲いました。この価格下落メカニズムについては様々な議論のあるところですが、その解決策は市場に投げられたままです。



敗戦後の禿山となった国土に営々と植えて育てられた約1千万haの人工林資源が成熟し、国産材の量的な供給体制が政策的に整えられた今、待望の国産材時代を迎えるために、供給側と需要側はそれぞれどのように対応すればよいのでしょうか。

今回のシンポジウムでは、ルネサンス・シリーズ第三弾として「国産材ルネサンス！」と題し、国産材の需要開拓を通して既存産業の裾野を広げ、地域振興やソーシャル・ネットワーク形成などへの貢献に繋げていく展望を描きたいと思えます。



(写真提供:株式会社トーセン、株式会社安成工務店、株式会社グリーンマム ホームページより)

## 国土緑化推進機構助成シンポジウム

# 国産材ルネサンス！

一創る・繋ぐ・調える 森と木のビジネス

前半 13:45～15:15

●国産材を取り巻く需給構造

●総合的な木材利用の必要性

●川下から川上へその魅力の伝え方



武田 八郎 氏  
(一財)日本木材総合情報センター 理事



東泉 清寿 氏  
株式会社トーセン 代表取締役



安成 信次 氏  
株式会社安成工務店 代表取締役

日時

平成25年

9月28日(土)

開場:13:00/開演:13:30

場所

東京大学弥生講堂

一条ホール

地下鉄南北線「東大前」徒歩1分

後援

林野庁、林業経済学会、(独)森林総合研究所、サントリーホールディングス(株)、住友林業(株)、(株)日本林業調査会、(公社)大日本山林会、全国森林組合連合会、(一財)日本森林林業振興会、(一社)全国木材組合連合会、(一社)日本林業経営者協会、(一社)全国林業改良普及協会、(一社)日本森林技術協会、(一社)日本林業土木連合協会、(一財)日本木材総合情報センター、(一財)日本緑化センター、NPO法人自然環境復元協会

主催

シンポジウム実行委員会  
土屋 俊幸(委員長)/岩永青史/大塚 生美/  
志賀 薫/関 良基/永田 信/満田 夏花/  
安村 直樹/山本 美穂

後半 15:30～17:50

●国産材の需要と供給をつなぐ仕事

〈パネルディスカッション〉



川畑 理子 氏  
株式会社グリーンマム 代表取締役



座長  
藤掛 一郎 氏  
宮崎大学農学部教授



どなたでも参加できます。

(資料代500円)

事務局・お問い合わせ

財団法人 林業経済研究所 (担当:大塚) TEL:03-6379-5015

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A office@foeri.org http://www.rinkeiken.org

# 国産材ルネサンス！



「10年後の木材自給率50%」をキャッチフレーズのひとつとして登場した森林・林業再生プランは、論者だけでなく生産現場、行政や一般大衆をも巻き込み、これまでにない多くの議論を喚起しました。一連の対策で、価値実現を待つ国産材の供給量を確保する体制についてはある程度の布石が打たれてきたといえそうです。一方で、量的な供給体制が整うなかで、2012年上半年期には想定以上の木材が市場に溢れたことによると思われる価格暴落が業界を襲いました。この価格下落メカニズムについては様々に議論のあるところですが、その解決策は市場に投げられたままです。「供給はそれ自身の需要を創造する」とした古典派経済学の「セイの法則」を鵜呑みにする現代人はまずいように、山から木材を出す体制を整えても、それを積極的に使うあてがなければ、当然のことながら経済は循環しません。敗戦後の禿山となった国土に営々と植え育てられた約1千万haの人工林資源が成熟し、国産材の量的な供給体制が政策的に整えられた今、待望の国産材時代を迎えるために、供給側と需要側はどのように対応すればよいのでしょうか。



これまで、当シンポジウムでは、国有林、国立公園のあり方、木質バイオマス利用、「ウッドニューディール」、森林・林業再生プラン、そして「広葉樹ルネサンス」、「くもエネ」ルネサンス！」と銘打ったパラダイム転換、といった議論に挑戦してきました。今回のシンポジウムでは、ルネサンス・シリーズ第三弾として「国産材ルネサンス！」と題し、国産材の需要開拓を通して既存産業の裾野を広げ、地域振興やソーシャル・ネットワーク形成などへの貢献に繋げていく展望を描きたいと思えます。

国産材を取り巻く需給構造の全体像について(一財)日本木材総合情報センターの武田八郎さんから、スギー般材製材の現場から様々な需要をどのようにキャッチし市場をつくり出してきたのかについて(株)トーセンの東泉清寿さんから、素材としての木材と最終消費者である施主との間に立って住宅を通した国産材のあり方について(株)安成工務店の安成信次さんから、そして、重厚長大な木材の世界にしなやかな女性の視点を加えることでいかに付加価値と市場を作り出してきたかについて(株)グリーンマムの川畑理子さんから、それぞれご報告いただきます。藤掛一郎宮崎大学農学部教授を座長として、全体のとりまとめおよび総合討論を行ない、所期の目的に近づきたいと思えます。

## プログラム

- 13:00 受付開始
- 13:30-13:45 開会の挨拶 土屋俊幸(大会運営委員長)
- 13:45-14:15 第1報告 武田八郎氏(一般財団法人日本木材総合情報センター理事)  
「国産材を取り巻く需給構造の変化について」
- 14:15-14:45 第2報告 東泉清寿氏(株式会社トーセン代表取締役)  
「国産材製材と今後の山林活用  
—総合的な木材利用の必要性—」
- 14:45-15:15 第3報告 安成信次氏(株式会社安成工務店代表取締役)  
「川下から川上へ その魅力の伝え方」
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-15:50 コメンテーター  
川畑理子氏(株式会社グリーンマム代表取締役)  
「国産材の需要と供給をつなぐ仕事  
—地方の力をもっと都会に！—」
- 15:50-17:50 パネルディスカッション  
座長 藤掛一郎氏(宮崎大学農学部教授)
- 17:50-17:55 閉会の挨拶 箕輪光博(財団法人林業経済研究所理事長)
- 18:00-20:00 懇親会(弥生講堂ロビー) お気軽にご参加ください。

## 会場地図



〒113-8657 東京都文京区弥生1丁目1-1

どなたでもお気軽にご参加ください。  
会場・運営協力: 東京大学林政学研究室

事務局・  
お問い合わせ

財団法人 林業経済研究所 (担当: 大塚)

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A TEL:03-6379-5015

office@foeri.org <http://www.rinkeiken.org/>